

# 昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 055

何事も最初が肝心と言いますが、春の芽出し、植え付けシーズンを迎え、肥料にも最初に効かせると良い成分があります。りん酸、苦土、硫黄、各微量元素がそれに当たり、特に苦土の効果は絶大です。

## 苦土でスタートダッシュ！「花さか効果」

苦土（マグネシウム）は植物の葉緑素を作るために欠かせない栄養素です。不足すると葉の緑が作れないので生育全体が低下します。また、苦土はりん酸と共に吸収される事から、土壌中のりん酸の効きを良くすると言われていています。

りん酸も生育初期に効かすことで作物の基礎体力を高めるため、追肥より基肥施用が有効ですが、春先の低温（低地温）では効きが鈍いというジレンマを抱える栄養素です。

そこで「苦土」の出番です。有名な童話の「花さかじいさん」は灰をふりかけ花を咲かせていますが、化学的に理に適っています。草木灰には苦土が含まれているからです。春一番に苦土を効かせることで、りん酸が効き、根が良く張るので、それ以降の窒素吸収や基礎代謝が良くなり生育全体が向上するのです。

下葉の黄化（苦土欠乏症）が出てから、仕方なく苦土を施用するのと、初期から意識して苦土をふるまうのでは、作物の育ちは全く違ってきます。

草木灰と同様に使えるのが、硫酸苦土肥料です。吸収性が高く、成分も濃いので少ない施用量で作業も楽です。硫黄も含み、野菜類など生育の早い作物に好適です。また、春先のアブラムシ対策を兼ねて硫酸苦土を施用する技術もあるそうです。初期葉の展葉を早めたり、だぶついた窒素を減らしたりすることで被害を軽減できると考えられます。

## 鶏ふん使用の生産者へ特にオススメ

安価な鶏ふんが手に入る地域では、鶏ふんを主体に施肥設計を行うケースが多いです。鶏ふんは苦土含有が元々少ないことと、石灰を含むことから苦土の吸収阻害（拮抗作用）が心配です。

バランスの取れた土づくりのために、鶏ふんを多用する生産者様へは是非苦土肥料をお薦めください。硫黄、ケイ酸、微量元素も同時に補えるジャストマグ（右）をオススメします。

### 【ジャストマグ】

NET15kg

苦土16%保証  
鉱物由来の硫酸苦土肥料で、苦土以外の副成分（ケイ酸、硫黄、微量元素）を含むのも魅力です。

春の基肥、芽出し肥えにオススメです！

